

「PDCAサイクルの破壊性」 第23回

昨年（2016年）末の12月21日、次期学習指導要領の案として、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」が出された。本体だけで246ページの膨大なものである。12月8日に出た教育課程部案の案とはほぼ同じであつた（これを前号で「2017年」と誤記したので訂正する）。今後文章を手直しされて文部科学大臣によつて「告示」される。中日新聞では5面のみの小さな扱いであつた。「息苦しさ」の根本である「コンピテンシー」は用語としても隠されて、実質的に文面に出てこなくなつた。『アクティブ・ラーニング』と『カリキュラム・マネジメント』は、……「一体」という骨格も「概要」では読み取りにくくなつた。「教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す『カリキュラム・マネジメント』の実現」ではその一つの側面で「PDCAサイクル」があげられている。



PDCAサイクルは、Plan-Do-Check-Actionだが、このPlanに教員の創意工夫が入つてこないという批判がすでにある。これは、もう大学で「猛威をふるつて」いる。

レジリエンスエンジニアリングの立場からは、PDCAサイクルは、セーフティの「悪いことが起こらない」のを前提に「失敗を減らす」古い考え方だと批判されている。事故が起こるたびに再発防止策としてマニュアルの追加と遵守が言われる。マニュアルないしスタンダードは、PDCAサイクルによつて、エラーがおこることにぶ厚くなつていき、関係者のやる気をそぎ、現実から遊離していく危険がある。（研究部・加藤聡一）

参考文献

- ① 芳賀繁「ヒューマンエラーと新しい安全マネジメント」（NHK「視点・論点」2016年11月6日放送）
<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/256906.html>
- ② 北村正晴「レジリエンスエンジニアリングが目指す安全（Safety-）の実現法」電子情報通信学会 基礎・境界（Safety-Fundamentals Review）Vol.8（2014）No.2・pp.84-95。
 J-STAGE 2014版90。